かみねっちょ新聞

令和６年 ３月号

ベルクマンの法則のお話

飼育員　山内

同じ種類や近縁な種類では北方(寒冷)の地域に生息するものの方が体が大きくなるという法則です。体が大きい方が寒さに耐えられる体温を維持しやすいというものです。

かみね動物園にいる動物の中にもわかりやすい実例があるので紹介します。

ニホンジカ(オス)

日本に生息しているニホンジカは、
地域によって７つの亜種に分けられます。

エゾシカ(北海道)
肩高　約 120 ㎝
体重　100～150 kg

ホンシュウジカ(本州)
肩高　約 85 ㎝
体重　約 80 kg

ヤクシカ(鹿児島県屋久島)
肩高　約 65 ㎝
体重　約 40 kg

北方

クマの仲間(オス)

ホッキョクグマ　(北極地方)
頭胴長　200～250 ㎝
体　重　400～600 kg

エゾヒグマ　(北海道)
頭胴長　160～230 ㎝
体　重　150～300 kg

ニッポンツキノワグマ(本州など)
頭胴長　120～180 ㎝
体　重　70～120 kg

マレーグマ　(東南アジア)
頭胴長　100～140 ㎝
体　重　30～65 kg

赤字の動物種がかみね動物園にいます。見比べてみてください。

色と模様

飼育員　所

以前ブラッザグエノンの健康診断を行っていたところ、黄色っぽい地肌が見えました。最初の感想は「黄疸！？なにか悪いところでもあるの！？」でした。他２頭も同じ感じ。血液検査の結果は異常なし。獣医師には、黄疸だったら検査の結果も変わってくるし耳の裏も黄色っぽくなっているはず。でもそうじゃないからこれが通常なのかもね。ということ。

さて、普段見ている動物の実際の地肌の色は意外と知らないものです。私自身も、ブラッザグエノンの担当にならなければ一生知ることはなかったでしょう。もちろんこれが正常なのか否かは、他のブラッザグエノンを飼育している動物園の方々に聞いてみなければ断定できないことではあるので、機会があるときに聞いてみようと思っていますが、縞のあるシマウマやトラなどの地肌はどうなのでしょうか。

当園で飼育しているハートマンヤマシマウマ。地肌は灰～黒っぽい色です。種差や個体差はあるようですが、一般的には暗い色の地肌をしています。トラに関しては毛を剃ると薄いピンク色の地に体と同じ模様が出るそうです。模様が出るのは色のついた毛包が皮膚の下に埋もれているからだそう。人間の髭剃り跡が青く見えるのと同じ原理なようです。どんな動物にも個性豊かな毛や色、模様を持っています。その意味を考えながら動物たちを見て回ると、新たな発見があるかもしれません。

YouTube

X

SNSでも写真や動画、最新の情報をお知らせ中！

Facebook

４月のイベント

・飼育の日特別イベント：20日(土)、21日(日)

詳細はかみね動物園ホームページをご覧ください
または　０２９４(２２)５５８６　まで

～ もうじゅうたちのするところ ～

動物を飼育する上でうんちというのは健康のバロメーターとなります。そのため、毎日チェックがかかせません。がおーこくで仕事をする中、種ごとにうんちをする場所に個性が見えてきておもしろいと感じたので、ちょっとここで紹介したいと思います。まずはトラのさわ。彼女はきっちりトイレを決めるタイプ。するときは決まって定位置にします。担当者としては見つけやすいのでありがたいです。続いてライオンたち。彼らはざっっくりトイレを決めるタイプ。さわのようにここ！という感じではありませんが、だいたい同じような場所でします。ライオンたちも比較的見つけやすいです。最後にジャガー。彼らは全く決まった場所がありません（笑）。おうちに帰った後、展示場を練り歩き捜索を行います。時折見つけられず、後日カッピカピに乾燥したものが発見されます。同じネコ科といえど違いがあっておもしろいですね。　飼育員・そめや